収録日：2025 年 5 月 22 日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第 10 回目のゲストは、自民党の高井俊一郎県議です。番組では、神主として神社を再建したご経験、県議としての哲学、趣味の音楽や格闘技などについて、お話を伺いました。高井県議の高い志や、多方面にわたる知的好奇心が伝わる内容となっています。



第 10 回　高井 俊一郎 県議（自由民主党）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
群馬県知事の山本一太です。直滑降ストリーム「県議と知事の紅茶懇談」を配信します。地方自治は二元民主制で、知事と県議会が両輪でつくるものです。県議会議員の存在は知っていても、どんな役目なのか、どんな人なのかは意外と知られていない、そんな問い合わせをいただくことがあります。そこで、この番組で、県議のお人柄や趣味などを発信し、それぞれの魅力を知ってもらおうという趣旨でやっております。

今日は 10 回目ということで、ゲストをご紹介いたします。自民党の高井俊一郎県議です。

高井俊一郎県議（以下、県議）
よろしくお願いします。

プロフィール

知事　まずは、プロフィールからご紹介いたします。

選挙区は高崎市、会派は自民党、当選２回、出身地は高崎市。趣味は生け花、音楽、神社参拝。昔は格闘技観戦もお好きだったとのことです。

生い立ち

知事　幼少期の頃からお伺いしますが、どんな子どもでしたか。

県議　幼稚園の３年間のうち２年間、誰とも口をきけない子でした。

知事　おとなしい子どもだったんだ。

県議　シャイで、全然人と喋れませんでした。その代わり、ずっと人を観察していました。今もその癖があるんですが。

知事　私の亡くなった父は、町議会議員、県議会議員、参議院議員

を務めた政治家でしたが、いつも「政治は人間観察だ」と言っていました。幼少期から政治家の資質があったのかもしれませんね。

知事　おとなしい性格が変わっていくきっかけは何かあったんですか。

県議　小学校に上がるとき「自分は変わらなきゃいけない」と思いました。入学式の後、教室で点呼があり、自分の順番のときに、わざと「はい」と言わずに立ち上がったんですね。それで先生が「何か忘れてない？」と言ったときに、「教科書かな」と答えたら、クラスがバーッと沸いたんです。それを意図的にやって、自分を変えようと思ったんです。そこからおちゃらけキャラになりました。

知事　いろいろ考え抜いてやられたんですね。高校はどちらだったんですか。

県議　高校は新島学園でした。

知事　新島学園はどうでしたか。

県議　今でも仲良くしている仲間が多く、現在の自分の生活や自分の中のいろいろな核が、その３年間で形作られました。

知事　スポーツは何かやられていたんですか。

県議　サッカーもやりましたし、中学はテニス部でした。空手もやりましたし、いろいろ経験しました。

知事　大学は東京ですか。

県議　國學院大學で神主の勉強をしました。神主の養成学校のような環境で、神主の家の出身者が多かったです。新島学園とは違ってあまり合わなかったですね。

大学１年生のときに、山名八幡宮の宮司だった祖父が脳梗塞で倒れてしまったんです。それで神社は開店休業状態になり、誰も来ない神社になってしまったんです。

本当は社会に出てやりたいこともあったんですが、「早く帰ってこい」と言われて 25 歳で神社に戻りました。

知事　國學院大學で馴染めなかった面もあったとのことでしたが、それでも神社に入ろうと思ったのはどうしてですか。

県議　単純に継がなければいけない環境だったこともありましたが、祖父が倒れたのが決定的でした。学生時代も正月の期間には神社を手伝っていました。なので、18 歳頃から正月の運営などを任されていたんです。今思うと良い経験でした。

神社の再建

知事　本来は子ども時代の話から性格や人生哲学を引き出すのですが、今日は神社を核にした街づくりの話を伺いたいと思います。以前、山名八幡宮にお邪魔したとき、カフェがあったりして良い雰囲気でした。神社のあり方についてお伺いできますか。

県議　古いものの良さを残しつつ、良い形でアップデートすることを心がけています。

25 歳で戻った頃は、誰も来なかったんです。来るのは賽銭泥棒くらい（笑）。掃除しかやることがない時期が続き、お金もなく、やることもなく、ここで一生やるのかなと悶々としていました。ただ、時間はあったので、神社を再興するにはどうしたらいいかを深掘りしました。

元々、神社は地域の伝統的共同体の中で、公共的な場所でした。公民館的な役割を担ったり、芸能も神社から生まれたりしたんです。産業化の中でその機能が薄れ、役割がなくなってしまった。だからこそ、地域の核・拠り所を取り戻すことで神社を復活させようと思ったんです。うちは安産・子育ての神社なので、徹底的に子どものイベントをしました。子育て世代に寄り添い、20 年かかりましたが人が戻ってきました。今では群馬県で安産・子育ての神社といえば山名八幡宮と言っていただけるくらいになりました。これをロールモデルに、かつての自分のように悩む若い神主たちにも伝えています。

知事　具体的に、民間や行政との連携はどう進めましたか。

県議　安産と子育ての文脈で、「心の拠り所」となるような場所を作ろうと思い、ただのカフェではなく、「子育てカフェ」を作りました。小さな子を連れていける場所が少ないので、母親たちが安心して長く過ごせて、子どもが安全に遊べる設計にしています。母親同士が話すことでストレスが解消され、リセットして子育てに戻れる。お母さんが病んでいると子どもも病んでしまうというループを現場で感じてきたので、その断ち切りに資する場にしました。昼間は長く滞在する方も多くて、

採算は合いませんが、そこは神社の役割だと思っています。

また、発達障害の施設も２つあって、本当の意味での心の拠り所になれたらいいなと思っています。自分で運営しているわけではないのですが、県内の信頼できる事業者に自分から声をかけて交渉して、入っていただきました。

広い意味で地域に開くことによって、いろんな人に入ってきてもらうこともやっています。例えば、ある企業と連携して、外遊び空間の整備をしてもらうなど、いくつかコラボレーションをしています。

知事　神社を中核とした地域づくりに取り組まれる上で、神社ならではの精神性や清潔感、凛とした空気も、拠点化する上での強みを感じられたのでしょうか。

県議　そのとおりです。心が安らぐ場にすることを常に心がけています。宗教の別なく、自分を超えた存在に手を合わせる行為は、精神の安定に資すると思います。機能的な場所と精神性の場所を重ねることで、来た方が手を合わせて帰ってもらう、ということを心がけています。

知事　日本人は今でも、何かあると神社でお賽銭を入れて願い事をするし、正月は初詣に行く人も多いです。日本人の文化として根付いていますよね。

神社をきちんと経営するために國學院大學で学んだことは、人格形成や政治家への道にどう影響しましたか。

県議　「公共」を意識するようになりました。神社は「儲けるためにやっている」と言ったら誰も来ません。神社や寺、教会、NPOも含め、地域のために何が必要かを考え抜くと、結果としてお金は後からついてきます。そういう中で公共を意識したことが政治につながったんだと思います。

知事　選挙前に神社で出陣式をするのも、日本の宗教観とつながります。

県議　宗教というより「信仰」なんでしょうね。手を合わせる行為そのものが自分の精神性の安定につながるところはあると思います。日本人は、自然への畏敬の念を感じながら生きてきた民族でもありますから。

政治家として

知事　政治家としての哲学を伺っていきたいと思います。今も山名八幡宮の宮司を務めつつ、早稲田大学大学院を修了するなど学びも重ねています。伝統文化も体現しながら政治に入ってきたわけですが、大事にしている哲学はありますか。

県議　「つなぐ」ということです。うちは今年がちょうど創建 850 年です。歴史の中には戦国や飢饉など、今以上に大変な時代もあったでしょうが、それでも 850 年つないできた歴史があります。これからも時代をつないでいく中で、自分が担えるのはせいぜい 50 年、一瞬じゃないですか。結果的に祖父が倒れたという良くない形で受け継ぎましたが、神社も社会も、次の時代により良くバトンを渡すことを意識しています。

知事　県議会で自民党に所属しておられて、高井さんは保守系と呼ばれています。高井さんにとって保守の定義はどういうものでしょうか。

県議　時間軸をちゃんとつないでいくことがすごく大切だと思っています。ただ、守旧でバトンは渡せません。時代に合わせていかなければいけない、時代に敏感でなければいけないと思うんです。そこを読み取りながら本質を見極め、時代に合う形で次にバトンを渡さなければいけないと感じています。

県議としてやりたいこと

知事　高井さんは非常に志が高く、群馬県の次の世代の政治を引っ張っていく人物だと思っていますが、その根本にあるもの、県議として何をやりたいと考えているでしょうか。

県議　「本質」を大切にすることです。本質をつかまないと、何を残したのかわからなくなるじゃないですか。政治でもニュースでも、本質でない議論が多いですよね。だからこそ、本質を見極めて、伝えていきたいです。

知事もそこは似ていると思っていて、だから戦っているわけじゃないですか。知事ほどではないですが、私もそのために戦っているという自負はあります。

知事　こんなこと言うと僭越ですが、高井さんには感性が似ているなと感じる部分もあります。

趣味

知事　ここからは趣味の話を伺いたいと思います。音楽が好きとのことですが、今ハマっているものは何ですか。

県議　柊人という歌手の『好きなこと』という曲です。息子が剣道を頑張っていて、「この曲が今の心境に合う」と言っていて、聞いたらすごく良い曲で。皆さんもぜひ聞いてみてください。

知事　皆さんご存じですか。高井さんの心情にも会っていると思うけど、「好きなことで稼げるまでは、嫌なことも一生懸命やる。いつか好きなことで稼げるようになるなら、今までの辛さにも意味がある」という歌詞なんですよね。

県議　「コツコツが勝つコツ」という歌詞が良いですよね。音楽はサカナクションも大好きです。

知事　『三日月サンセット』とか良い曲ですよね。

　映画は、クエンティン・タランティーノ監督の『パルプ・フィクション』が好きということで、映画好きとしては嬉しいです。

県議　音楽の入れ方が最高ですよね。あえて昔の曲を引っ張ってきて、シーンと音楽がパッと合うじゃないですか。

知事　見てもらうとわかるんですが、時間軸もバラバラだったりして、それもかっこいいんですよね。

知事　格闘技もお好きということですが、誰が好きでしたか。

県議　最近は見ていないんですが、新日本プロレスが好きで、武藤敬司が好きでした。高田延彦との看板を背負った戦いが好きです。

知事　武藤と高田は２回やりましたよね。最初は武藤が勝って、２回目は高田が勝ちましたよね。

　ヒョードルもお好きだとお聞きしました。

県議　そうなんです。PRIDE が好きで、東京ドームでのヒクソン・グレイシーと高田延彦の戦いも観に行きました。あと、ヒョードルとマーク・コールマンの試合も。

知事　皆さん知っていますか、マーク・コールマン。総合格闘技の創成期の大スターです。

県議　当時はコールマンがトップオブトップでしたが、ヒョードルも強くて、激闘でした。

知事　あの試合は新時代の幕開けを感じましたよね。高井さんとは 20 歳くらい年が離れていますが、こんなに格闘技の話ができて嬉しいです（笑）。

　堀口恭司さんも群馬の誇りですよね。

県議　あれだけ強くても守りに入らず、誰とでもやる姿勢がかっこいいです。格闘家だよな、という感じで。

知事　なぜ格闘技が好きになったんですか。やっぱり高井さんは人間観察が好きだからでしょうか。この人はどんな戦略で戦うのかみたいな。

県議　そうかもしれませんね。格闘技の戦略を見るのは面白いですね。

知事　少しプライベートについて聞きたいのですが、奥様とはどこで出会ったんですか。

県議　ちょっと恥ずかしいな（笑）。妻は美容師なんです。いつもは妻のお姉さんに切ってもらっていましたが、その日は急に来られなくなって、たまたまいた妻が代わりに切ってくれたのがきっかけです。妻はクラブミュージックが好きで、自分はロックが好きなので、サカナクションは２人で楽しめる共通項です。

群馬県の魅力 30 秒 PR

知事　30 秒で群馬県の魅力の PR をお願いします。

県議　群馬県の良さはやっぱり知事でしょうか。こんな知事、いないでしょ（笑）。コンテンツにこんなに造詣の深い知事はいないと思いますし、覚悟を持って取り組んでいるのがよくわかります。受け身にならず、腰が引けていない。そんなところが群馬県の良いところかな。

知事　ありがとうございます、こんなお世辞を言っていただいて（笑）。でも本当に嬉しかったです。

　私から見ても、高井県議は志が高く、これだけ勉強している方はなかなかいません。覚悟を持って、力を合わせて新しい時代を作っていきましょう。

　本日はありがとうございました。

県議　ありがとうございました。